

平成 29 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 足 立 広 明

最終学歴	同志社大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学	
取得学位	文学修士	
所属学会	文化史学会、日本西洋史学会、日本西洋古典学会、地中海学会、キリスト教史学会、史学研究会、西洋史研究会、日本オリエント学会、日本ビザンツ学会、ジェンダー史学会	
専門分野	西洋古代末期の社会史	
研究課題	キリスト教巡礼と修道制の成立、古代末期女性史、古代末期の帝国と社会変容など	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学通論（後期） ・西洋史概論（後期） ・西洋史特殊講義（後期） ・西洋史講読（通年） 昨年は後期を分担 ・西洋史演習（通年） 同上 ・史学研究法（共同担当）
	大学院修士課程担当科目 （博士前期課程含）	<ul style="list-style-type: none"> ・国際文化財史料学演習 I ・西洋史学特殊講義 I
	大学院博士後期課程担当科目	
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋史概論 ・卒業論文
【研究上の特記事項】		
【教育上の特記事項】		
【社会的活動】		
【学内活動】 (学内職歴を含む)	企画委員、文学研究科文化財史料学専攻責任者、国際交流委員、学生指導委員	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) ① ② ③				
(学術論文) ①神の前に立つ「私」－女性使徒テクラの自己洗礼と自己決定 ② ③	単		ジェンダー史学 掲載予定	一昨年ジェンダー史学会において発表した内容に大幅に書き加え、今年度末に審査を経て掲載決定。女性聖人テクラの在り方をローマ社会の女性指導者の伝統との連続のなかで捉えようとするハイレンの研究をベースに、テクラの場合はイエスに誓う自己決定により伝統から一步を踏み出したと論じた。
(学会発表) ①なぜまた、そしてなぜまだ古代末期なのか？ 帝国の時代から宗教的コンウエルス時代へ ② ③	単	2017年5月	第67回日本西洋史学会大会	1970年代以降伸展する西洋古代末期研究の問題点と課題を明らかにしようと試みた。古代末期には諸帝国が危機を迎えたが、普遍的な宗教が出現して現在に続くさまざまな文化の基礎が築かれた。
(その他) ① ② ③				